

○宇野 裕委員 お礼と意見と質問、ちょっとまぜてお話をさせていただきたいと思いますが、先ほど教育長のごあいさつの中で、進学指導重点校の指定について匝瑳高校を指定していただけるということで、本当にありがたいと思っております。匝瑳高校、歴史と伝統があるわけでありまして、これから来年度指定していただけるということで、地元の校長先生と本課のほうでぜひ連絡を密にさせていただいて、してきたことがよかったなと言ってもらえるような指定にさせていただきたいと、これは要望であります。お礼も含めてであります。

質問ですけど、大きくは2つあります。

1つは、私なりに戦後の我が国を振り返って考えますと、我が国の戦後の復興というのは、世界でもトップクラスの勤勉な国民の努力によって、なし遂げられたのではないかなと私は思っております。あわせて、世界で通用する人材が貿易面や国際交流の場で活躍してきたこと、これも見落としてはいけないのではないかなというふうに思っております。日本は島国ですので他国との交流、国レベル、国民レベル、どちらの面においても受け身ではだめだと、積極的に自発的に努力して継続していかなければならないと常日ごろ思っているものであります。そういう中で、最近若者の思考というんですかね、内向きになっているというような報道も聞いております。

戦後、先ほど言いましたように、海外に追いつけ追い越せという機運とか社会的な背景があったので、とにかく世界に行き飛び込んで勉強していこうと、そういう積極的な若い世代がたくさんいたと思うんですけども、低成長、経済発展がなし遂げられて安心してしまったのかどうか分かりませんが、これでいいんだと、世界に学ぶものはないんだみたいな、多少言い方は変かもしれませんが、うぬぼれとか安心感とか、そういう入りまじった気持ち、それとナンバーワンでなくてもいいんだとか、そういう変なことを言う人もいますし、やはり資源のない我が国は、人材の育成というのが絶対にこれからも継続して努力していかなきゃならない。その中で、内向きであってはならないと私は思っております。そういう視点から考えますと、グローバルな世界に通用する人材の育成、こういうことを私は大きな柱の1つにしなければいけないのではないかなと今も思っております。

我が千葉県は、日本の表玄関である成田空港を抱えている県であります。そういう千葉県として、県教委として若者の国際化—国際化という言葉はちょっと私も質問して定義は難しいと思っておりますけども、日本に誇りを持ち、日本の伝統文化をきちっと踏まえた上で世界に飛び出していくと、そういう意味で世界から信頼してもらえるような日本人だなと思ってもらえるような若者がふえてもらいたいと思っておりますけど、そういう意味も含めて県教委として、若者の国際化に向けてどのような事業を現在考えているのか、あるいは行ってい

るのか。答えられる範囲で質問したいと思いますが、よろしくお願いします。

○委員長（松下浩明君） 田山指導課長。

○説明者（田山指導課長） 若者の国際化に向けて県でどのように取り組んでるかということでございますけれども、現在豊かな語学力、あるいはコミュニケーション能力、異文化体験、これらを身につけて、国際的に活躍できるいわゆるグローバル人材の育成、この必要性が求められているところでございまして、本県でも本年度からこのグローバル人材プロジェクト事業、具体的には高校生等海外留学助成事業というようなものや、あるいは英語力を強化する指導改善事業などを柱とした新たな事業に取り組んでいるところでございます。

特にこの高校生等海外留学助成事業でございますけれども、外国の正規の後期中等教育機関、いわゆる日本の高等学校に当たる学校へ1年間留学をする場合に、その費用を助成をしていこうと、こういったようなもので、県内の子供たちが広くグローバル人材を目指す牽引力としていきたいと、また、戻ってきた後にはその留学の報告書の提出、あるいは留学報告会等を企画いたしまして、留学していない他の高校生等もグローバル人材を目指すような動機づけにできればというふうに考えて取り組んでるところでございます。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございます。ただいまの高校生を対象に海外留学を助成する事業というお話ありましたけど、もう少し詳しく内容を教えていただけませんか、具体的に。

○委員長（松下浩明君） 田山指導課長。

○説明者（田山指導課長） これは千葉県内の私学を含めた高校生ですね。これが正規1年間の留学をする場合、一応1人当たり40万円という金額。期間が1年間にわたるということで40万円というと大分少ないということもございますけれども、一応人数的には25名ということ想定しております。その留学にかかる費用の一部、これを補助金として交

付するというような形で取り組んでおるものでございまして、これは文部科学省の補助事業でございます。高校生の留学促進事業、こちらを活用して行うものでございます。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございます。それではちょっと質問、もうちょっと突っ込ませてもらおうと、25人、今お話ありましたけども、選抜をするということでもありますけども、その基準みたいなものがあれば教えてください。

○委員長（松下浩明君） 田山指導課長。

○説明者（田山指導課長） 応募条件といたしましては、まず留学を希望する生徒は在籍する学校の校長に留学願を提出して、一般的には海外での単位認定等も受けることから、留学許可証を交付するのが一般的でございます。その留学を在籍校長から認められているようなこと。それから、いわゆる海外の例えば団体で行くプログラムもございます。あるいは個人で行く留学もございます。それがしっかりとした計画で、原則1年間というような形になってるかどうか。それから学業が優秀であり、心身が健全であるというようなこと、さらには当該校長からの推薦を受けているというようなことで選考してまいります。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 しっかりやっていただきたいと思いますが、今の事業で先ほど質問の頭で言ったんですけども、やはり日本人というものがどういうものであるかということを経験者のレベルでやっぱりきちっと教育していただいて、日本の歴史や伝統や文化を海外へ行ったときに誇ってお話ができるように、正しい歴史観を持って留学生を選考のときに考えていただきたいというふうに思います。向こうの文化や伝統を吸収することも大事なことですけども、自分のアイデンティティーを相手に伝えられる発信力というものが問われると思いますので、ぜひそういう視点で海外に留学生をどんどん送っていただきたい、これは要望であります。

2 問目なんですけども、先ほど教育長のごあいさつの中であった点ですが、質問させて

いただきたいんですけども、第11次千葉県体育・スポーツ推進計画の中の、プロスポーツを活用したスポーツの推進というものを新たな施策として盛り込んだというふうにお話がありましたけども、この内容をもう少し詳しく教えていただきたいと思いますが。

○委員長（松下浩明君） 石渡体育課長。

○説明者（石渡体育課長） 今回策定いたしました第11次千葉県体育・スポーツ推進計画の大きな特徴は2つございます。1つは「子どもの体力向上と体育の充実」ということで、幼児期における体力づくり。もう1つが、今御質問がございました「スポーツを活用した地域の活力づくり」のうち、プロスポーツを活用したスポーツの推進ということでございます。

具体的なその取り組みの方向性でございますけれども、プロスポーツチームと学校の地域をつなぐシステムの研究、あるいはプロスポーツチームによる学校や地域、それからスポーツクラブ等でのスポーツ教室の開催、講師等の派遣などがございます。千葉県内、ロッテマリーンズ、それから柏レイソル、ジェフユナイテッド市原・千葉、それからバスケットの千葉ジェッツ……。

（「プロレスもある」と呼ぶ者あり）

○説明者（石渡体育課長） 今後プロレスも検討します。それとアメリカンフットボールのオービックシーガルズ等ございまして、こういったところと連携して競技力の向上も含めまして、今後スポーツ全体の県民の関心なり、そういったところに努めてまいりたいということで計画を策定したというところでございます。計画に当たりましては、いろいろなところからの御意見もいただいておりますけど、プロチーム等からいろいろなお話ししている場面で、もう少し千葉県民のほうにいろいろスポーツ—自分たちのやってるスポーツだけじゃなくて、スポーツ全体の振興にも取り組んでいきたいということで、お互い協働でやらせてくださいというような御意見もございましたので、そういったことで今後プロチームとも検討させていただくということで、今後計画を推進させていただきたいと考えております。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 わかりました。今の事業で、年齢的には何歳から何歳ぐらいの若者をターゲットにしてるのか、あるいは全年齢を対象にしてるのか、ちょっともう少し詳しく教えていただけますか。

○委員長（松下浩明君） 石渡体育課長。

○説明者（石渡体育課長） スポーツ立県を目指すということで、今回スポーツ推進計画、策定しております。スポーツ立県ということで、「する、みる、ささえる」ということでございますので、いろいろな形ですべての年齢の方を対象としてございます。コーチとか選手と一緒に交流ということになれば、ちょっと年齢の低い小学校高学年、あるいは中学校ぐらい。ただ、実際の国体選手—これからジュニア強化ということも視野に入れてますので、高校1年生ぐらいまでの方は、するスポーツという意味では交流の対象になろうかと思えますけども、私どものほうとしては全年齢を対象にして考えております。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 私は、すごくいい取り組みだと思っておりますので、ぜひ成功してもらいたいと思います。ヨーロッパとか世界を見ますと、やはりプロというもののトップチームがあって、そのすそ野が子供、本当に幼児期まで、ファンクラブみたいなものも含めて地域に根差したスポーツクラブ、サッカーならサッカー、バスケットならバスケット、そういうもの、トップチームを頂点に今言ったようにそういう三角形ができて、非常にすそ野が広くて、地域にとってすごいいい効果が出てると。いろんな面でですね。そういうことで千葉県は今お話にありましたようにレイソルやマリーンズとかがあって、すごい恵まれてると思いますので、そこをさらに磨きをかけていただいて新しい取り組みでありますので、今まで、例えば指導するときにプロの選手が学生を指導するというのはいかなものかというようなことを言う人もいたと思うんですけども、私はナンセンスだと思ってるんですね、個人的には。どしどしすばらしい技術やいろいろな指導方針なんかを学校の先生も聞かれて、はっと気がつくこともあるでしょうし、また地域の子供たちがすばらしい競技を見て、感動してスポーツを続けようと思ったり、そういう効果が私はあると思いますので、どんどんプロスポーツ団体との交流を深めていっていただきたいと思います。

最後になんですけども、予算的にはどのぐらいのことを考えてるんでしょうか。今後ですね。

○委員長（松下浩明君） 石渡体育課長。

○説明者（石渡体育課長） 予算ということでそれぞれあれなんですけども、現在のところ、今先生御指摘のプロスポーツの交流のところの予算……。

（宇野 裕委員、「はい」と呼ぶ）

○説明者（石渡体育課長） 予算立ては今のところしていないということでございますので、今後何か事業があれば考えさせていただければと思います。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 要望ですけども、やはり予算がないと力強い事業にならないと思いますので、ぜひプロとの交流になれば講師の派遣だとか、いろいろお金がかかる場所もあると思いますので、その辺のところ、ぜひ予算化に向けて頑張りながら、この事業を充実していただきたいと要望です。

終わります。